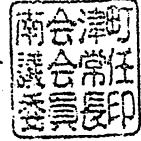




24 議 委 第 6 9 号
平成24年11月30日

南会津町議会議長 芳賀沼 順一 様

文教厚生委員長 高 野 精 一



文教厚生委員会行政視察研修報告書

行政視察研修について、その結果と内容を下記のとおり報告いたします。

記

1. 研 修 日 平成24年10月30日（火）～11月1日（木）
2. 場 所 (1) 兵庫県丹波市 県立柏原病院・県立柏原病院の小児科を守る会
 (2) 鳥取県智頭町 特定非営利活動法人智頭町森のようちえん
 まるたんぼう
3. 目 的 (1) 地域住民による診療支援活動と病院の医療体制について
 (2) 自然環境を生かした幼児教育について
4. 研修時間 (1) 午後2時30分～午後4時00分
 (2) 午前9時00分～午前11時00分
5. 参 加 者 委 員
 高野精一・湯田良一・湯田秀春・星登志一・菅家幸弘
 事務局
 湯田昌伸
6. 内 容
 (1) 県立柏原病院・県立柏原病院の小児科を守る会
 1) 県立柏原病院
 県立柏原病院は昭和28年4月に結核診療所として開設され、その後、診療科目の新設やMRI棟を増築し、現在はへき地医療拠点病院として位置づけされている。

(平成 24 年 4 月現在)

診療科目		内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・外科・脳神経外科・整形外科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・歯科
医 師 数	正規医	22 名
	専攻医	6 名
病 床 数		303 床
1 日あたりの平均患者数	外 来	272.5 人
	入 院	107.4 人
経営収支状況 ※平成 23 年度決算	当 期 純損益	△10 億 3,400 万円

医師数の推移は平成 16 年度と比べ 63%まで減少しているが、小児科の医師数は 3 名から 7 名と増加している。この背景には、子どもをもつ母親たちが医師の働きやすい環境をつくるために発足された「県立柏原病院の小児科を守る会」による活動が一因となっている。

2) 県立柏原病院の小児科を守る会

①発足までの経緯

平成 19 年 4 月、小児科閉鎖の危機という衝撃的な記事が地元紙丹波新聞に掲載され、記事を書いた丹波新聞の記者の呼びかけで座談会（11 名参加）が開かれた。

目的は「小児科・産科の危機を子育て世代はどのように感じているか」であった。不平不満がでるなか、記者から「お医者さんの勤務がどれだけ過酷か知ってる」の問いかけに、ひとりの母親が体験談を話し始めた。

喘息発作の子供を連れて夜 8 時夜間救急を受診した。30 人ほどが待っていて午前 2 時受診、入院が決まり病室に通されたのが午前 4 時そのまま親子で寝てしまったが翌朝目を覚ますと、「処置しておきました」と先生の置手紙があり、翌日も普段通りに診療する姿を見たとき「先生寝てないんだ」ということに気づきました。子供の病気を考えたら小児科無くなるのは困るけど、先生の姿見とったら「辞めんといて」とはよう言わん・

最後は涙声になっていた。

この座談会で不平不満を口にしていた様子はガラリと変わり、お医者さんの過酷な実態その一因に患者の無理解による「コンビニ受診」があることを知り、県立柏原病院の小児科を守る会が発足された。

②活動状況

丹波市と隣接する篠山市の人口11万人を対象に「私達患者もコンビニ受診をやめて、医師の負担を軽減するので医師を派遣して下さい」との文面を添えた署名活動を行い、5万筆を超える署名を県に提出したが期待した結果は得られなかった。

行政に頼るだけではなく、自分たちができることをできる範囲で行動し、お医者さんが働きやすい地域づくりをしようと決意。3つのスローガンをもとに平成19年7月から広報活動を行った。

1. コンビニ受信を控えよう
2. かかりつけ医を持とう
3. お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう

③具体的な取り組み

- ・「ありがとうメッセージ」箱の設置
- ・マグネットステッカーを作成
 - 《#8000 小児救急医療相談》《こどもを守ろう お医者さんを守ろう》
 - 《地域医療を守るのは一人ひとりの心がけ》
- ・情報を発信するためのホームページ作成
- ・「病院に行く、その前に」（受信の目安フローチャート）を発刊

（2）特定非営利活動法人智頭町森のようちえん まるたんぼう

①設立までの経緯

平成21年度から町の方針により3か所の保育園が2か所になり、不便を感じた西村早栄子・熊谷京子氏が子どもにとって本当に大切なものは何か？智頭町でしかできない子育てとは何か？を考え、デンマークやドイツで行われているスタイル（毎日の預かり型保育）を目指し森のようちえんの設立に向け活動した。町の100人委員会（町民の事業提案を予算化する委員会）で構想のユニーク性が認められ、町から助成金が出ることになり、平成21年4月から立ち上げられた。

（平成24年4月現在）

保 育 体 制	保育士6名、事務員2名、調理師1名、運転手2名
---------	-------------------------

園 児 数		25名
対 象 園 児		1～5歳児
森のフィールド		14か所
保 育 料 等		入園料：3万円 運営協力費：1万円/年 保育料：3万円/月 午後保育：5千円/月 体験入園：3千円（1回のみ・保険料込）
行 政 の 支 援 状 況	開園から 3 年 間	町助成金：695万円
	4年目～	県助成金：360万円 町助成金：360万円
長期休園日		春休み：約2週間、夏休み：約4週間、 冬休み：約2週間

②活動状況

智頭町森のようちえんまるたんぼうは、のびのびと自然の中で体を鍛え心を育み、仲間を大切にすること、人との関わりの中で知恵を学び、そして、子どもたち自身が何事にも自ら判断する環境づくりを保育方針としている。

活動プログラムは天候に左右されず、雨の日も、風の日も、雪の日も森の中で子どもたちが興味や関心があるものを体験させることを基本としている。そのため、子どもたち自らが14か所ある森のフィールド（保育場所）の中から今日行くフィールドを選択し、その日の活動内容を決定する。

保育士は子どもたちの考えや感性を尊重しているため、「これをしなさい」「はやくしなさい」「汚い」「危ない」の言葉は使わず、子どもたちが困っていても手を出さずに助言程度にとどめ、子どもたちを温かく見守っている。

現在、森のようちえんの保育方針に賛同した家族6組が子どもを入園させるために智頭町に転入しており、平成25年にはさらに6組の家族が転入する予定。

《主な活動プログラム》

- ・森の中での散歩・ものづくり（野菜づくりや木工）

- ・クッキング（週一回昼食を自炊）
- ・年間行事（登山遠足・お泊りキャンプ・稲刈りなど）

7. 所 見

（1）県立柏原病院・県立柏原病院の小児科を守る会

本町でも過去に県立南会津病院の小児科が無くなるということから町民が立ち上がり署名活動を行った経過がある。

県立柏原病院の医療圏である丹波市では、医師確保のために医師研究資金貸与制度や産科医院開設補助制度など独自の取り組みをしており、行政・市民・病院が連携し、医療環境の向上に努めている。

地域医療を支えるには、現状を広く町民に周知することと、行政・住民が互いに出来ることを一つひとつ実践し、継続的な活動を行っていくことが重要である。

（2）特定非営利活動法人智頭町森のようちえん まるたんぼう

子どもたちがいきいきと野山を駆け巡る姿に感銘を受けた。自然体験活動を通して子どもたちの本来持っている潜在能力を引き出す保育環境は、幼児期に良好なものと思料される。しかし、森林での活動となるため森の中に潜む危険性（熊・猪・蜂・毒蛇・漆等）があり、場合によっては命にも関わることから安全性の面で難しい課題もある。

子育て環境の選択肢の一つとして、本町においても自然環境に恵まれていることから、学校跡地を拠点として運営することは可能と判断される。